

授業科目名	学級経営論	教員名	中原 邦博 (実務経験のある教員)	免許・資格 との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	選択
授業形態	講義	担当形態	単独		保育士	
科目番号	SID318	配当年次	3年前期	卒業要件	こども音楽療育士	
単位数	2単位				小幼コース	必修
科目						
各科目に含める 必要事項						
一般目標	学級経営の意義や望ましい学級集団のあり方、生き生きと学ぶ授業づくりなどの理論と実践の学習や、学級経営案の分析・検討・作成などを通して、学級経営に必要な教師としての資質や実践意欲を育てることができる。					
到達目標	<p>(1) 学級経営の意義</p> <p>1) 学級経営の概念（領域論と機能論、学級づくり論等）について理解することができる。</p> <p>2) 学級経営の本質について理解することができる。</p> <p>(2) 学級の組織と編成</p> <p>1) 学級編成の概念を理解することができる。</p> <p>2) 学級編成の方法について理解することができる。</p> <p>(3) 学級経営マネジメント</p> <p>1) 学級目標設定の手順を理解することができる。</p> <p>2) 学級経営計画と学級経営案との関係を理解することができる。</p> <p>3) 学年段階に応じた学級経営の在り方を理解することができる。</p> <p>4) 学級経営の評価と改善計画について</p> <p>(4) 学級経営案の作成</p> <p>1) 学級経営案の事例を参考にして、学級経営案を作成することができる。</p> <p>2) 作成した学級経営案を相互評価してよりよい学級経営案を作成することができる。</p> <p>(5) 他学級・保護者・地域と連携した学級づくり</p> <p>1) 他学級と連携した学級づくりについて理解することができる。</p> <p>2) 保護者・地域と連携した学級づくりについて理解することができる。</p> <p>(6) 発達障害の子どものいる学級経営</p> <p>1) 発達障害の子どものいる学級経営の在り方について理解することができる。</p> <p>(7) 荒れた学級やまとまらなくなった学級の対応</p> <p>1) 荒れた学級やまとまらなくなった学級を立て直す取組について理解することができる。</p> <p>2) 学級崩壊を起こさない学級づくりについて理解することができる。</p> <p>(8) 学年特性を生かした学級づくり</p> <p>1) 児童の発達段階を踏まえた様々な取組について理解することができる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる</p> <p>2 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。</p> <p>3 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。</p> <p>4 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。</p> <p>5 教育実践力を身につけている。</p> <p>6 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている</p> <p>を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	学級担任と児童および児童同士の相互作用によって、すべての児童が生き生きと心豊かに成長するように、目標を定め、計画を立てて実践し、評価を通して計画を見直し改善していくのが学級経営である。本講義では、初めに学級経営の意義について講義する。次いで、集団づくりや人間関係					

	<p>づくりの理論及び実践方法を講義する。さらに、学級教育目標の設定や学級経営計画の検討、評価と改善など学級経営マネジメントについて講義する。また、学級経営の実際について発達段階ごとの事例を踏まえながら、グループディスカッション等を通して理解を深める。それらの知識や実践例等を踏まえて学級経営案を作成し、相互批正させる。そのほか、特別な配慮を必要とする子どもがいる学級経営や荒れてまともにならなかった学級の対応など、様々な実践事例の分析・検討を通して学級経営の実践力を育成する。授業形態は、講義とする。アクティブラーニングとして、「振り返り、個別の質疑応答、グループディスカッション、小テスト」などを取り入れる。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回： 学級経営の意義 「学級経営のとらえ方」 【4/13】  (1) 学級経営の概念… 学級経営に関する領域論と機能論 (1) -1  (2) 学級経営の本質… 学級経営の本質についての歴史的な経緯 (1) -2</p> <p>第2回： 学級の組織と編成 ① 「学級概念と学級編成」 【4/20】  (1) 「学級編成」と「学級編制」の違い (2) -1  (2) 学級編制基準の国際比較 (2) -1</p> <p>第3回： 学級の組織と編成 ② 「学級編成の方法」 【4/27】  (1) 学級編成の原理… 個性化の原理、社会化の原理、安定化の原理 (2) -2  (2) 多様な学級編成の基準 (2) -2</p> <p>第4回： 学級経営マネジメント ① 「学級教育目標の設定」 【5/11】  (1) 学校の教育目標と学級教育目標の関係 (3) -1  (2) 学級教育目標設定の手順と実践例 (3) -1</p> <p>第5回： 学級経営マネジメント ② 「学級経営計画と学級経営案」 【5/18】  (1) 学級教育目標と学級経営目標（方針） (3) -2  (2) 学級経営計画の実際及び学級経営案の内容と様式 (3) -2</p> <p>第6回： 学級経営マネジメント ③ 「学級経営の実際Ⅰ」（低学年の事例検討） 【5/25】  (1) 「小学校の生活になれるまで」 (3) -3</p> <p>第7回： 学級経営マネジメント ④ 「学級経営の実際Ⅱ」（中学年の事例検討） 【6/1】  (1) 「仲間を感じられる集団づくり」 (3) -3</p> <p>第8回： 学級経営マネジメント ⑤ 「学級経営の実際Ⅲ」（高学年の事例検討） 【6/8】  (1) 「子どもの自主性を生かすかわり」 (3) -3</p> <p>第9回： 学級経営マネジメント ⑥ 「学級経営の評価及び改善計画」 【6/15】  (1) 学級経営評価の視点 (3) -4  (2) 学級経営評価の実際 (3) -4</p> <p>第10回： 演習「学級経営案の作成」 【6/22】  (1) 学年目標や児童の実態を踏まえた、低・中・高学年別の学級経営案を作成する。 (4) -1</p> <p>第11回： 演習「学級経営案の相互評価」 【6/29】  (1) 個別に作成した学級経営案についてグループ別に相互評価する。 (4) -2</p> <p>第12回： 他学級・保護者・地域と連携した学級づくり 【7/6】  (1) 他学級との連携で大切なこと (5) -1  (2) 姉妹学級での取組 (5) -1  (3) 保護者や地域人材を活用した取組 (5) -2</p> <p>第13回： 発達障害の子どもがいる学級の学級経営 【7/13】  (1) 一人一人のニーズに応える学級経営 (6) -1  (2) 本人と教師との人間関係づくり (6) -1  (3) 本人と学級の子どもたちとの関係づくり (6) -1</p> <p>第14回： 荒れた学級やまともにならなかった学級の対応〈外部講師招聘〉 【7/20】  (1) 荒れた学級の問題解決の糸口や方法は、その学級の「荒れ」そのものの中にある。 (7) -1、2  (2) 「いじめ」「暴力」の問題にメスを入れることと、よく分かる授業づくりは欠かせない。</p>

	<p>(7) -1)、2)</p> <p>第15回： 学年特性を生かした学級づくり <b>【7/27】</b></p> <p>(1) 児童生徒の発達段階を踏まえた学級担任による様々な取組 (8) -1)</p> <p>(2) 確かな児童生徒理解に基づく学級経営の実際 (8) -1)</p> <p>◇<b>定期試験</b>：試験期間中に実施する。 <b>【8/3】</b> (予定)</p>
学生に対する評価	<p>定期試験70%、レポート30%とし、総合的に評価・判定する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業または個別の面談により、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回講義の最後に次回の講義項目を伝えるので、必ず事前にテキストあるいはプリント等の予習をし、不明な点を調べておくこと。</p> <p>事後指導：講義内容に関するレポートや小テストを課すので、解答して正解を確認した上でファイルしておくこと</p>
教材にかかわる情報	<p>テキスト：『子どもの心が育つ学級づくりの基礎・基本』を参考にして準備する。(金子書房)</p> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学大全集『学年・学級の経営』（第一法規）</li> <li>・『最高の学級づくりパーフェクトガイド：指導力のある教師が知っていること』</li> <li>・『学級経営読本』（玉川大学出版部）</li> </ul> <p>参考資料等：</p>
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	<p>メールで連絡を取ること。</p> <p>Email: knakahara@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p>
備考	